

入居者インタビュー

今の生き甲斐は庭園ボランティア！
～ これも義父のお陰です ～

今号は入居2年目、いつも気持ちの良い笑顔の栗本博さん、君子さんご夫妻を紹介します。

主人との出会い

(君子さん) 実は主人は当時お付き合いしていた彼の友人だったんです。グループで遊びに行く友人関係でした。でも当時付き合っていた彼と結婚の話が出た時に、養子にはいけないと言われ別れることになりました。その後、主人から「僕は養子でもいいよ」と言ってくれたのと、人柄にも惚れて結婚しました。結婚後は私の実家に入り、同居生活が始まりました。



【栗本さんご夫妻】

庭師への転職

(博さん)庭師へ転職のきっかけは同居していたお義父さん。お義父さんが道楽で庭石を集めていて、庭どころか土間までが庭石でいっぱい。どうしようもなくなったお義父さんから、この大量の庭石をなんとかしてくれ、と言われたんです。それで庭石を売るだけじゃなくて、じゃあいつそのこと庭を作る方もやってみたいと思い、庭師の道へ入りました。でも庭師の道もそんなに甘くない。親方の下について5年間は見習いとして修業しました。必死になって親方衆の技術を盗んで、おかげさまでなんとか独り立ちしてやっていけるようになりました。

入居を早くから検討した訳

(君子さん)父の介護がきっかけです。しばらくは自宅でみていたけど自宅での介護が難しくなり、特別養護老人ホームへの入居を考え始めました。結局父はホームへ入居することなく亡くなりました。その時に特別養護老人ホームをいくつか見学して、自分たちは入居したくないなと思い、費用はかかっても元気な内に自分たちで見学して納得したところに入居しようと決めました。娘が2人いるけど、それぞれの生活があるから始めから老後のことを頼むつもりもなかったです。

入居したいホームへの希望は、温暖で自然豊かで海が近くて高層マンションじゃないタイプ。初回の見学の時に「ここだ！」と直感で感じました。立地・環境も希望を満たしていたし、大食堂やコミュニティスペースで行き交う入居者がパワフルで若々しく、お元気な方が多くて驚きました。

庭園ボランティアが元気の秘訣

(博さん)伊豆高原ゆうゆうの里の敷地内の木々を剪定する庭園ボランティアを毎週2回しています。これが生き甲斐のひとつ。入居者や職員さんから、「きれいにしてくれていつもありがとう！」と声掛けをたくさんもらえてとても嬉しいです。それに一緒に作業を行っている庭園管理の職員さんが私の技術を盗んでどんどん上達している姿をみることも教える喜びです。庭師の技術がホームに入居してからも活かせるなんて思いませんでした。庭園ボランティアは本当に生き甲斐です。体が動き続ける限り続けたい、と思っているので僕から庭園ボランティアを取り上げないでくださいね。



【庭園ボランティア中の博さん】